

科に第2回入院となった。入院時所見：身長 149cm, 体重 31kg (-33.5%) 月経は不順。歯牙はほとんど脱落(長年の嘔吐のため胃酸により腐食されたものと考えられた)。精神的現在症：表情に乏しく生き生きとした感情表出がみられない。異常体験や自我障害はない。一般検査：異常なし。脳波：正常である時と6 & 14Hz 陽性棘波が時にみられたり、1回のみ左側中心部に小棘波を認めた。治療経過：入院時より個人面接を行なった。第1期は閉じこもりの時期で言語を介する精神療法は困難であると思われ非言語的働きかけを行なった。第2期は感情表出はみられるが言語化が不十分な時期であった。この時期、行動療法的アプローチを導入した。両親との葛藤を充分言語化できず終わった面接の後に治療者との院内散歩を行なったところタガがはずれたように閉じこもりが緩み食事がとれるようになり治療の分岐点となった。第3期は自己表現が進んだ時期で体重も40kgとなり退院した。その後外来通院しているが体重も安定して内職・書道をするようになっていく。また平行して家族面接も行なった。心理検査：前回入院時は、外界への関心が低い自閉性と現実検討能力の低下がみられたが、社会的未発達も考えられた。今回入院時外界への反応性は高まっているが現実検討能力に欠け自己中心的であった。退院後は、性格傾向に変化はないが現実検討能力が増し未来をみつめる姿勢となっていた。頭部CT：今回入院時左半球軽度萎縮がみられたが退院後はほぼ正常となり、摂食障害でみられる可逆性脳萎縮と考えられた。

本例は幼小期から両親による軽視、差別があり、食行動異常は、自己承認欲求や愛情飢餓のあらわれと理解され、馬場の分類による「前思春期群」遷延例と考えられた。本例に対し非言語的働きかけ、行動療法的アプローチなどをタイミングよく行うことができた。摂食障害の治療は、対象の明確化と治療技法の柔軟な選択が重要であると考えた。

##### 5) 男子例「やせ症」のロールシャッハテストについて

出江 一枝・星 敬子 (新潟大学精神科)  
 七里 佳代・滝沢 謙二  
 橘 玲子 (新潟大学保健管理センター)

摂食障害の男子例についての研究は非常に少なく、個々の症例報告のみに留まっている。今回、我々は摂食障害の男子例と女子例においてロールシャッハテスト上の違いが認められたので報告する。

症例は、主として新潟大学附属病院を拒食、過食、食

思不振などの主訴で受診し摂食障害と診断された男子15名、女子20名である。年齢は男子が12才から33才までで、平均、19.7才、女子が14才から25才までで平均20.5才である。

まず、主要な人格構造を把える為にロールシャッハテストの体験型に基づき、全員を両貧型、外向型、内向型、両向型の4群に分類し、男女について比較した。その結果、両貧型では男子例73%に対して、女子例35%と、男子例の方が多く、一方、内向型では男子例7%に対して、女子例50%と女子例の方が多く見られ、体験型の分布に男女の違いが認められた。

次に、今回は男子例を中心に考察することが目的なので、特に両貧型男子11名、女子7名について検討した。男子の両貧型では拒食例、過食例はほぼ同数で、経過は改善例が8例と多かった。女子例では拒食例、過食例共にはほぼ同数で、経過は治療中断が多く改善例は全くなかった。両貧型では臨床像の男女の違いはないが、経過は女子例の方が不良と言える。

続いて、ロールシャッハテストの指標について男女の違いを検討した。その結果男子例ではw%60以上9名、F%50以上8名、m0.5以上5名、Fk+k. 1以上4名、R+%50以下6名であった。女子例ではFc≤CF+C、5名、Σc 1以上4名、カラーカードでの反応率35%以上4名、R+%50以下1名であった。このことから、男子例では要求水準が高く強迫傾向があること、外界との深い関わりを回避すること、内界に不安、葛藤を感じていること、現実検討力の低下が特徴と言える。一方女子例は、男子例に比べ具体的な所で外界と関わり、易刺激性と感情統制の悪さがある一方で現実検討力が維持されているのが特徴である。

以上のことから摂食障害の男子例と女子例の心理的特徴の違いについて若干考察を試みた。男子例について高木は治療困難、予後不良を指摘しているが、我々の症例は予後が比較的良好で、バーンズが報告した軽症のタイプに近いと言える。即ち、先に触れたように、不安、葛藤を感じ、外界を回避する人格特徴を持つことから、男子例の場合、摂食障害が体へのこだわりという一過性に生ずる不適応症状の一つと考えられる。一方、女子例では易刺激性、感情の変動性という女性性に根づいた病理が背景にあるようだ。その点で、男子例と女子例は根本的な所で発症の背景が異なっているように思われるが、今後、症例を加え、臨床像との照らし合わせを含めた男女の違いを検討することが必要と考えられる。